

本庄市 20 年の軌跡とさらなる発展に向けて



本庄市長
吉田 信解

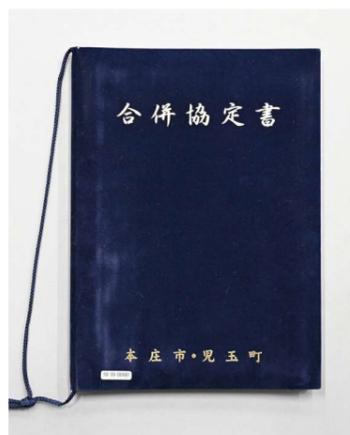
本庄市市制施行 20 周年という節目を、皆様と共に迎えられることを心より感謝申し上げます。

この 20 年を振り返ると、新型コロナウイルス（感染症）による未曾有のパンデミックや、市内でも甚大な被害があった記録的な大雪など、地域を挙げて取り組むべき課題に幾度となく直面しました。決して平坦な道のりではありませんでしたが、それらの困難を乗り越え、皆様の知恵と活力に支えられながら、本庄市は着実に成長を遂げてまいりました。この発展を支えてくださった市民の皆様、企業・団体の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

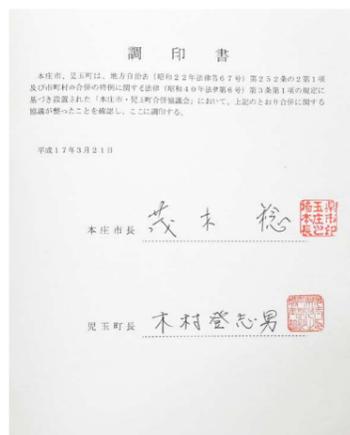
このたび発刊する記念誌には、過去 20 年間の歩みとその経験を次世代へつなぎ、「どこにでも行けるけど、ここにいたい。本庄」(*1) の未来を見つめる道標となれば、との願いを込めました。どうぞ末永くお手元に置いていただき、本庄市のさらなる発展に向けて、「世のため、後のため」、(*2) 引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(*1) 本庄市の思いやビジョンを端的に表現した、市のブランドメッセージ → P.14 令和 6 年を参照

(*2) 橋保己一の残した言葉。市の将来像として、「総合振興計画」にも掲げている → P.3 平成 19 年を参照



本庄市合併協定書



本庄市長 吉田 信解



『広報ほんじょう』創刊号
(2006 年 2 月 1 日号)

本庄市市制施行 20 周年を迎えて



本庄市議会議長
稲田 平一郎

市制施行 20 周年という記念すべき節目を迎えるにあたり、今日まで本市の発展にご尽力賜りましたすべての市民の皆様、そして関係者各位に対し、市議会を代表して心から敬意と感謝を申し上げます。

近年の少子高齢化の進行や気候変動、そしてコロナ禍など、各般にわたり大きな変化が起こる中でも、困難な時期を乗り越え、前を向き挑戦を続けながらたどり着いたこの 20 年。これをひとつの大きな区切りとするとともに、新たな出発点として捉え、次の世代に誇れる持続可能なまちを築いていけるよう、地域一体となって共に歩んでまいりたいと願っております。

議会といたしましても、これからも市民の皆様と共に、ひとつひとつの課題に向き合い、市民の皆様の負託に応えるべく、安全で安心して暮らせるまち「本庄市」のさらなる発展へ向け、議員一同、誠心誠意努めてまいります。今後とも、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

時代の証言者

「今、コロナ禍を振り返って」

私たちの生活に深い影を落としたコロナ禍。当時、本庄市児玉郡医師会の会長として、医療現場の最前線で指揮を執った高橋茂雄先生に、不安と混沌に満ちた日々を振り返っていただいた。

「当然のことをやっただけです」と穏やかな表情で語る高橋先生は、医師として 50 年のキャリアを持つ。新型コロナ対応は、医療現場にとって一生に一度経験するかどうかの未曾有の事態だったと指摘する。2020 年、正体不明の感染症が世界的に拡大、「当時は今よりもずっと恐ろしい病気だと思っていた」と述べた。それでも、感染初期から医師会長として地域医療体制の早急な整備に動いた。医師会の健診センターでは、PCR 検査を早期に開始したほか、同年 10 月には、本庄市・児玉郡の約 3 分の 1 に相当する 26 の医療機関が診察・検査医療機関に指定され、「オール医師会」として一丸となって対応した。医師会として培ってきた知識や経験、人材を総動員し、多くの医療従事者が使命を全うした結果、地域医療が崩壊することなく機能できたと思うと語る。

2021 年にはワクチン接種が開始され、本庄市では個別接種と集団接種を並行して実施。休日返上で業務にあたった医師や看護師、行政職員らの尽力について、「すべての関係者に心から感謝している」と述べた。「わずか 5 年前の出来事だが、はるか昔のことのように感じる」と振り返る高橋先生。現在、新型コロナは指定感染症から外れ、社会は落ち着きを取り戻しつつあるものの、ウイルスが消えたわけではない。「基本的な感染症対策を忘れずに続けてほしい」と市民に呼びかけた。高橋先生をはじめとする医療従事者の使命感と献身は、今も変わることなく地域を支え続けている。



高橋 茂雄さん
(医師)

中山道沿いの本庄のまち並み



アスピアこだまからみた児玉のまち並み

